

エジプトの病院施設建設工事で 技研の「ゼロクリアランス工法」が採用

株式会社技研製作所（本社：高知市、代表取締役社長：北村精男）のグループ企業である株式会社技研施工（本社：高知市、代表取締役社長：大平厚）は、エジプト・アラブ共和国の首都カイロにおいて日本政府開発援助（ODA）による病院施設建設のための土留め工事を受注、当社の「ゼロクリアランス工法」で8月下旬に着工する予定です。

中東最大の都市のひとつであるカイロでは、慢性的な公的医療機関での専門医、医療機器および設備の不足が問題となっています。本工事をおこなうカイロ大学小児病院は、貧困層に対する小児医療サービスを中核的に担う存在で、1982年に日本の支援によって設立されたことから、地元市民の間では「日本病院」として知られています。しかし、建物の老朽化やスペース不足等の問題を抱えており、今回新たに内科系診療棟を新設することで、外来サービスの改善と共に大学病院としての教育機能の強化を図ることにしています。

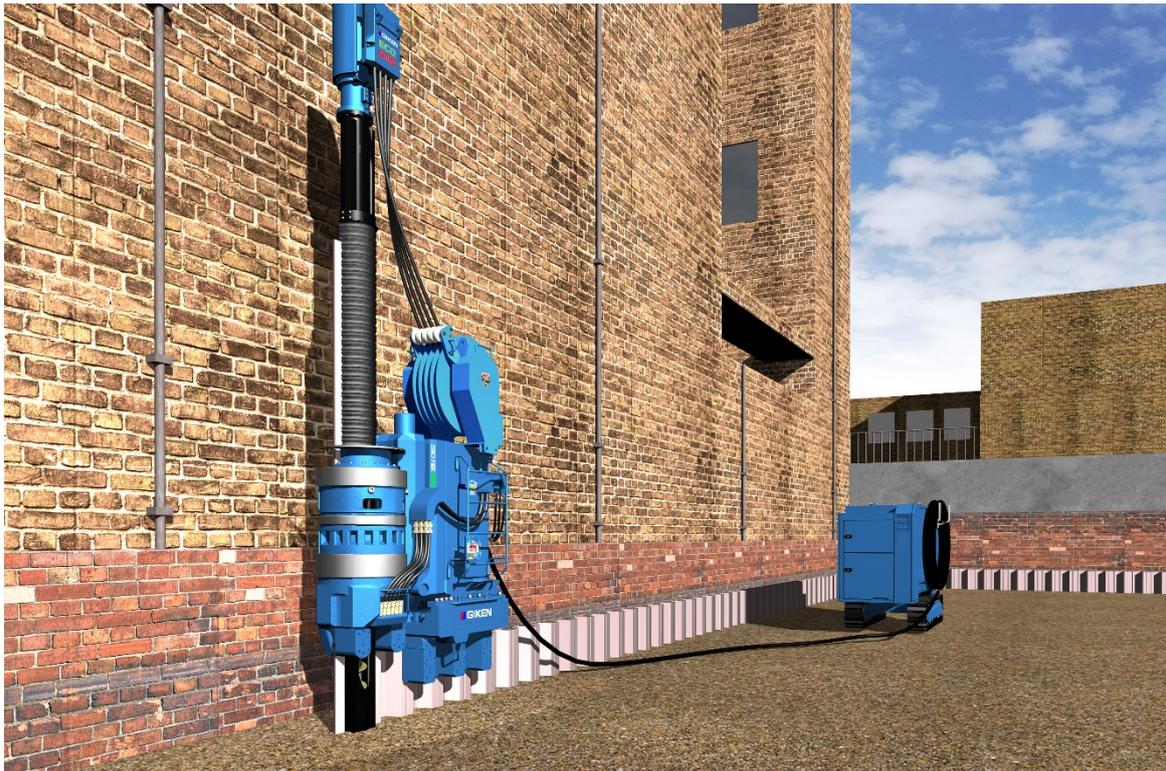
今回の新設工事での地下掘削に伴う土留め工事は、当初、他の工法で行う予定でしたが、隣接するレンガ造りの構造物への影響や地下水位が高いことを理由に、鋼矢板を用いた圧入工法への変更が検討されました。その中でも周囲の施設を共用しながら敷地を有効利用するために、隣接する構造物との隙間（デッドスペース）を「ゼロ」の状態に施工可能なゼロ矢板（NS-SP-J）を用いる当社の「ゼロクリアランス工法」が、日本国内での豊富な施工実績を基に採用されました。

本工事では、約30m×19mの敷地内に杭長7.5mのゼロ矢板46枚と杭長10.5mのゼロ矢板100枚を圧入します。硬質地盤に対応した「ゼロパイラー®」を用いて、安全かつ迅速な施工を実現します。

今回の新設工事は、中東・北アフリカをはじめとする世界の過密化した都市において効率的で環境に配慮した圧入工法の優位性と有用性を証明し、その認知度を高める機会となります。



カイロ大学小児病院
内科系外来診療施設 完成予想図



硬質地盤対応ゼロパイラーによる施工イメージ図



「ゼロクリアランス工法」の実績事例

隣接構造物との隙間（デッドスペース）をゼロに抑え、敷地を最大限有効活用する工事を行った。

（東京都墨田区でのビル新築工事）

■ 事業概要

- 事業名 : カイロ大学小児病院外来診療施設建設計画
- ODAの種類 : 無償資金協力
- 工事場所 : エジプト・アラブ共和国カイロ県カイロ市
- 発注者 : カイロ大学 (Cairo University)
- コンサルタント : (株)日本設計・ビンコーインターナショナル(株)
コンソーシアム
- 元請業者 : 大日本土木株式会社
- 施工者 : 株式会社技研施工
- 圧入工工期 : 2019年8月下旬～9月下旬 (1ヵ月間)

お問い合わせ先 :

株式会社 技研製作所 経営戦略部 情報企画課

TEL : 088-846-6783 (平日 8:00~17:00) E-mail : info_plan@giken.com

【高知本社】高知県高知市布師田 3948 番地 1